

朝霞地区在宅緩和ケア推進ネットワークについて

目的

朝霞地区内で緩和ケアを必要とする住民のニーズのために「標準的で質の担保された在宅緩和ケア」を提供する医療機関や事業所が増加すること。

根拠

- ✓ がん死は全死因の3割程度を占め、死因の第1位として、総死亡とともに2040年までは増加が見込まれる
 - ✓ 在宅で看取るべきがん患者数を高齢者の増加率から予測し、「全死因と同程度の在宅看取り割合」とした場合、2030年には340人程度まで増加しそうである
 - ✓ 在宅で看取るべきがん患者数を高齢者の増加率から予測し、「がん死者全体の20%程度」とした場合、2030年には230人程度まで増加しそうである
- * ここでは、在宅死を「医療機関以外での死亡」と見做して試算

まとめ

地域の在宅がん患者数についての試算からは、今後在宅で緩和ケア・看取り数については増加していくことが予想され、病院で入院できる日数は、現在より短縮されていくことも予想されている。緩和ケア病棟でも同様である。地域で療養をする人々が増加していくことから、地域で在宅緩和ケア・看取りを多職種でおこなってゆくための実践能力を高めていくことは課題である。

ネットワークに参加することのメリット

- ・年度ごとにアップデートされるイーラーニングの内容習得
- ・症例検討会で培われる現場力
- ・TMG あさか医療センター 緩和ケアセンターへの相談体制が24時間確保される（緩和技術・後方ベッド）*
- ・「朝霞地区4市 がん在宅ケアガイドブック（仮）」へのNW参加事業所の掲載

今後のNWの活動

- ・令和6年9月から2か月毎に開催される症例検討会への参加（オンライン）
 - *症例検討会への事例の提示は、WGメンバーが行う
 - *症例検討会への参加が難しい場合は、アーカイブ配信の視聴でも可能。
- ・ワーキンググループが用意した、それぞれの職種に分かれた教材・確認問題の受講。
- ・ネットワーク全体会議：ネットワークの運営や効果についての意見交換を行う（日程については未定）
- ・ネットワーク参加される皆様には、情報共有ツールとしてのMCSへの加入を検討いただきたい。